



このお祭りは今年で10回目になります。

希望ヶ丘フェスティバルにボランティアとして参加しました（4月24日）昨年から地域の商店街のお祭りにボランティアとして国際語科も参加しています。今年は国際の生徒1、2年生約50名の生徒が生徒会と一緒にお祭りの運営と、被災地支援として釜石の物産販売の手伝いをしました。



生徒会は前日学校に泊まって、釜石の物産展販売の準備をしました。被災体験も話し合いました。

熊本震災への募金も 販売の準備も完了！
行いました。



（左）釜石の物産を仕入れて、利益は熊本に送ります！（中）フェスティバル10周年の今年は、記念の「あんパン」配布をしました。（右）出展している屋台で美味しいものもたくさん食べました！



清掃班はみんな笑顔で会場のゴミを回収してさわやかな隼人生のイメージをアピール！



高校総合体育大会の開会式に水泳部が参加しました（4月23日）今回は水泳部の皆さんに開会式に参加していただきました。どの学校よりも沢山の生徒が入場行進をし、横浜隼人の今後の活躍に花を添えるものとなりました。もちろん水泳部にも国際の生徒が入部しており、入場式の前には一生懸命練習も行いました。

国際語科1年生ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」(5月16日)を中庭で行いました！



「役割カード」でどの国の人か決まります。自分の国の言葉であいさつをして、同じ国の人を探しました。

「押しくらまんじゅう」ではありません。アジアには沢山の人が住んでいることをみんなで表しています。

言葉が分からないと大変なことになる！
「薬＝砂糖水」「毒＝塩水」さあ、どっちかな？

世界の貧富の差を表す活動。十人以上でコップ1杯ちょっとしか飲めない班もありました。

生徒の感想から

●最後にやった貧富の差を表したもので、水の配分にびっくりした。自分は上から2番目（の豊かさのグループ）で、これくらいいいなと思ったが、上から順に量を言われていった時、一番上の量はさすがに多いな、と思った。分け合うことができたなら世界から貧富の差はなくなるのに、それができない現実を改めて知った。自分の国じゃないから関係ない、ではなくしっかりと向き合うことが大切だと思った●最初はよくわからなかった。けどやっているうち、聞いているうちに「今の世界はこうなっているんだ」と興味を持てた。実際先生から聞くととても悲しいことで、正直聞きたくない話だったけど、聞くとILCにいる私たちはこういう仕事に就く可能性も高く、考えなければならないと思った。今はそれを学ぶ時期で、大人になったら世界に貢献できるような仕事に就きたい●国際語科で総合学習（アクティビティ）をするのは初めてでしたが、いろんな人に話しかけることもできたし、何より楽しみながら現在の世界の状況について知ることができました。（貧富の差を知る活動で）「わければいじゃん」と言っている人もいましたが、今現在、世界ではごはんが食べられない人がいるのに私たちは分けようとしていません。ですからもう一度「世界について」「私たちができること」について考えてみようと思いました●遠い世界がすごく身近に感じた1時間でした。実際に1年の国際語科でやったことで、自分には関係ないと少し思ってしまった自分も、改めて友だちと考え直すことができたのではないかと思います●僕がILCに入ったのは将来アメリカの大学でそのような貧しい人たちを助けたいと思ったからです。口で言うのは簡単でも行動に移さないのなら、それは貧しい人たちに対して背中を向けているのと同じだと思う。自分は不言実行をします！●今回の活動のおかげでなんて裕福なのかと少し自分に怒りさえ覚えてしまいました。熊本などへの募金も同情ではなく、相手への理解を深め、積極的に参加していきたいと思います●特に今回印象に残ったのは文字が読めない人の多さと、それによる危険性です。文字が読めない和最悪命を落とす可能性があるのだと分かって悲しかったです。